

2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年8月10日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 石井 滋久
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部部长 (氏名) 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の業績 (2022年10月1日~2023年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	1,614	△4.4	265	△24.9	371	△2.6	251	△1.3
2022年9月期第3四半期	1,688	△4.6	352	△24.1	381	△11.7	254	△11.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年9月期第3四半期	112.70		—					
2022年9月期第3四半期	114.23		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	4,122	3,734	90.6
2022年9月期	4,045	3,589	88.7

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 3,734百万円 2022年9月期 3,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	35.00	—	43.00	78.00
2023年9月期	—	0.00	—		
2023年9月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の業績予想 (2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,331	5.2	401	△3.7	495	4.2	346	9.4	155.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年9月期3Q	2,228,000株	2022年9月期	2,228,000株
2023年9月期3Q	49株	2022年9月期	—株
2023年9月期3Q	2,227,973株	2022年9月期3Q	2,228,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的状況(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、ようやく新型コロナウイルス感染症の影響が収束へと向かい、徐々に景気の持ち直しが期待されています。その一方で、依然として、エネルギー価格や原材料価格の高騰による物価上昇等が続いており、引き続き、不透明な状況下にあります。

そのような中、歯科医療業界におきましても、新型コロナウイルスの影響が長引いており、物価や原材料費の高騰や来院患者数の減少等により歯科医院経営が逼迫され、システムの買替控えや閉院・廃院する歯科医院が増える等、厳しい状況が続いております。更に、マイナンバーカードを保険証として扱うマイナ保険証を巡り、保険者の情報が正しく反映されないなどのトラブルが相次ぎ、歯科医院のオンライン資格確認等システムの導入や稼働が遅れる等、当第3四半期累計期間の業績にも大きな影響が見られました。

一方で、健康長寿社会を迎え、歯の早期予防・早期治療への健康意識が高まる中、2022年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022（骨太の方針2022）」で「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）」制度の導入が示され、「歯科衛生士等の人材確保の必要性を踏まえた対応」について推進していくことが示されております。今後の歯科医療のDX推進は、国として早急に取り組む課題の1つであることが示されました。

そこで当社は、歯科医療のDX推進に対応していく歯科医院に向けて、2023年3月7日に業界初となるAI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」（以下AI-Voiceとする）の完成を発表、そして、2023年4月12日にNews Releaseで歯科衛生士不足という社会問題と患者さまの検診の増加への対応不足という課題解決に向けて、AI・音声歯周病検査システムP-Voice Dental Spirit（以下P-Voiceとする）を新たに独立したシステムとして開発し、その概要を発表しました。

このP-Voiceは、両手で歯周病検査をしながら発話するだけで検査結果の入力ができ、歯科医師または衛生士1人で歯周病検査の完結が可能となりました。このことは、画期的な業務効率・生産性向上に繋がると共に、短縮した業務時間を患者さまとのコミュニケーションに費やすことができ、顧客満足度向上にも繋がります。更に2023年5月16日には創立45周年記念としてP-Voiceの特別割引キャンペーンを新聞広告で全国に告知をしたところ、予想を上回る反響をいただきました。

当社はこれら一連の活動を、主力商品である歯科電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit XR-10i」やAI-Voice、P-Voiceの販売へと繋げてまいりました結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,614,042千円(前年同期比4.4%減)、経常利益は371,009千円(前年同期比2.6%減)、四半期純利益は251,083千円(前年同期比1.3%減)と微減にとどまり、自己資本比率90.6%、PER16.11倍といずれも高水準となっており、PBRにつきましても1倍割れの上場企業が多い中、当社は1.08倍となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は4,122,224千円となり、前事業年度末と比較して76,471千円増加いたしました。

a. 流動資産

流動資産は2,152,827千円となり、前事業年度末より107,893千円減少いたしました。主な内訳は、現金及び預金の減少120,729千円と、売掛金の増加55,529千円、商品の減少65,678千円であります。

b. 固定資産

固定資産は1,969,397千円となり、前事業年度末より184,365千円増加いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの増加102,151千円、ソフトウェア仮勘定の増加33,000千円、有価証券の購入に伴う投資有価証券の増加47,160千円であります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は387,599千円となり、前事業年度末と比較して68,354千円減少いたしました。

a. 流動負債

流動負債は339,022千円となり、前事業年度末より69,395千円減少いたしました。主な内訳は、買掛金の増加37,765千円、未払金の減少72,795千円、未払法人税等の減少34,767千円であります。

b. 固定負債

固定負債は48,576千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は3,734,625千円となり、前事業年度末と比較して144,826千円増加いたしました。前事業年度に係る配当金の支払いが95,804千円生じた一方、四半期純利益を251,083千円計上したことにより利益剰余金が155,279千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2023年5月11日に公表いたしました「2023年9月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」の通りでございます。

今後、歯科医療のDX推進に向け、当社が考える歯科DX実現の3要素とは、①情報漏洩とデータ改竄を排除し、電子カルテ三原則を確保した医療情報セキュリティの構築。②電子カルテとオンライン診療を含む、予約・問診・受付自動精算機・歯周病検査・画像・治療説明等が一元管理されたシステム。③先生が診療しながら、手袋を外さず、音声でカルテ作成・検査結果が記録でき、治療説明の会話録音とテキスト化による自費での診療トラブルを防止できるシステム。この3つの要素をクリアしないと歯科DX、即ち歯科医院の経営改革は実現しないと当社は考えています。AI-Voiceの完成により、この3要素を現実のものとししました。そして、さらに歯科衛生士不足という課題解決に向け、2人で行っている歯周病検査を1人で行えるシステム、P-Voiceを完成させました。

このP-Voiceは、16km圏内にある訪問診療先にP-Voice搭載のiPad・スマートグラス・通信用携帯を持参するだけで、訪問診療先での歯周病検査も1人で行えます。

また、この度、世界で広く使われている歯周病検査表(Perio Chart/ペリオチャート)と国際基準のFDI方式に対応した「Perio Chart Pro. Voice」を開発し、8月に完成します。これも業界初となるAI・音声入力による英語対応版歯周病検査ソフトとなります。FDI方式とは、歯式表現法の一つでWHO(世界保健機関)、FDI(国際歯科連盟)の国際基準となっています。

今後の懸念材料は、マイナンバーと健康保険証のひも付けトラブルによる影響で、歯科医療機関のデジタル化に対するマインドの低下、7月より新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあり、口腔内治療の歯科業界においては、予約中心で患者数制限を余儀なくされています。

しかしながら、歯科医が2人以上、歯科衛生士が5人以上の中規模、大規模医院の先生は、業務の効率化と患者様の満足度を高めるために、歯科のデジタル化に対して積極的で、DX実現のためのシステムを求めておられることを実感しております。当社システムは電子カルテとクラウドシステムの結合により、歯科医院業務システムの一元管理を実現しました。さらにAI・音声電子カルテ入力により、業務効率・生産性向上を図ります。残念ながら先生方が当社をご存じないのが現状です。いかにして当社をアピールするか、各種学会、展示会等様々な手段を講じて参ります。

その一環となりますが、現在、複数の企業さまより、ビジネスパートナーとして業務提携のお声掛けをいただいております。共に歯科医療に夢と未来を提供したい、社会に貢献したいと考えられている企業さまと販売チャネルの拡大を進めており、歯科DXの革新的ソリューションを目指す新たなターゲット層の獲得に取り組んでいるところであります。

そして、当社は、歯科DX実現を目指し、経営を改革したい歯科医院を新たなターゲット層に加え、P-Voiceの販売を起点にし、主力商品である歯科電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit XR-10i」、及び、AI-Voiceの拡販へと繋げることで、中期的には、前期業績の1.5倍程度に相当する売上高33億円、経常利益7億円、純利益4億円を大きく超える増収・増益を目指して取り組みを強化してまいります。そして、歯科業界にとって最も大きな課題であるDX実現を力強く支援すると共に国民のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上に貢献してまいります。是非ともご期待ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,798,580	1,677,851
売掛金	143,627	199,157
商品	236,743	171,065
前払費用	35,485	30,818
未収入金	1,665	13,025
預け金	44,618	60,589
その他	—	319
流動資産合計	2,260,720	2,152,827
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	339,997	326,938
構築物（純額）	2,330	2,193
車両運搬具（純額）	14,693	11,022
工具、器具及び備品（純額）	26,730	31,602
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	733,681	721,687
無形固定資産		
ソフトウェア	82,206	184,358
ソフトウェア仮勘定	46,538	79,538
その他	2,122	2,043
無形固定資産合計	130,867	265,940
投資その他の資産		
投資有価証券	854,460	901,620
敷金及び保証金	33,156	35,442
繰延税金資産	31,332	42,210
その他	1,533	2,495
投資その他の資産合計	920,482	981,769
固定資産合計	1,785,032	1,969,397
資産合計	4,045,753	4,122,224

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,901	90,667
未払金	215,511	142,715
未払法人税等	85,714	50,946
未払消費税等	12,264	16,906
預り金	6,220	16,600
賞与引当金	11,119	—
その他	24,685	21,185
流動負債合計	408,417	339,022
固定負債		
退職給付引当金	47,536	48,576
固定負債合計	47,536	48,576
負債合計	455,953	387,599
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	2,955,957	3,111,236
自己株式	—	△77
株主資本合計	3,596,517	3,751,718
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△6,717	△17,092
評価・換算差額等合計	△6,717	△17,092
純資産合計	3,589,799	3,734,625
負債純資産合計	4,045,753	4,122,224

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自2022年10月1日 至2023年6月30日)
売上高	1,688,735	1,614,042
売上原価	436,010	444,724
売上総利益	1,252,725	1,169,318
販売費及び一般管理費	899,891	904,259
営業利益	352,834	265,058
営業外収益		
受取利息	8	8
有価証券利息	26,250	16,347
受取配当金	—	10,000
受取手数料	1,108	450
投資有価証券売却益	—	78,333
その他	884	811
営業外収益合計	28,252	105,951
経常利益	381,086	371,009
特別利益		
固定資産売却益	3,517	—
特別利益合計	3,517	—
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益	384,604	371,009
法人税、住民税及び事業税	136,091	126,259
法人税等調整額	△5,987	△6,332
法人税等合計	130,103	119,926
四半期純利益	254,500	251,083

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。